

能登らしい暮らし・文化の復興の現局面と次のフェーズを考える ～令和6年能登半島地震から2年にあたって～

- **日時**：2026年2月27日（金）13:00～15:10
- **会場**：東北大学 青葉山新キャンパス 災害科学国際研究所 1F 会議・セミナー室
- **対象**：学内外の研究者、学生（→ 申込先・ご質問（当日参加・途中入退場可））



趣旨：FAO 世界農業遺産（GIAHS）たる能登の「能登らしい」暮らしの復興を論じるには、農山漁村コミュニティ（農的活動、民俗文化、過疎高齢化）への包括的で解像度の高い理解が欠かせない。これは農山漁村の防災と復興を考える際に不可欠な知見・視点である。本会では石川県を含めて所外から農学、人文学の専門家を招き、緻密な現地調査や地域との協働実践に基づく能登の現状評価、過去の被災地の経験を共有頂く。以上を踏まえ、震災から2年の総括と次の復興フェーズに向けた展望を試みる。

【プログラム】

開会挨拶 栗山進一（東北大学 災害科学国際研究所長／災害科学コアリサーチクラスター長・教授）
趣旨説明・講演者紹介 原 裕太（東北大学 災害科学国際研究所／環境科学研究科 助教）

招待講演（13:15～14:40）

- ① 山下良平（石川県立大学 生物資源環境学部 准教授） | ご専門：農村計画学、農村社会学
「石川県「農村地域コミュニティ再生モデル集落支援事業」にみる能登農業の復興概観と、復興モデルの当為論」（仮）
- ② 加藤一幾（東北大学 大学院農学研究科 准教授） | ご専門：園芸学、植物栄養学、植物生理学
「福島県葛尾村における「復興農学」・「復興知」の教育・研究および園芸振興」
- ③ 後藤知美（国立文化財機構 文化財防災センター 研究員） | ご専門：民俗文化財、民俗学、博物館学
「無形民俗文化財被害状況調査・支援事業をとおしてみた能登の祭り
—祭り行事の被害/復興状況と今後の課題—」
- ④ 井川裕覚（東北大学 大学院文学研究科 助教） | ご専門：実践宗教学、仏教福祉学、臨床死生学
「災害復興に伴走する宗教者——能登半島地震後の寺院・僧侶の実践」

質疑応答（14:40～15:05）

閉会挨拶 木村敏明（東北大学 総長補佐／文学研究科長・文学部長／災害科学コアリサーチクラスター災害人文学領域長・教授）

会場前ポスター展示：国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットによる同ユニットの取組み、GIAHS「能登の里山里海」紹介 ほか

主催：2025年度東北大学災害レジリエンス共創研究プロジェクト（代表：山下良平、本学側受入：原 裕太）

共催：石川県立大学、東北大学災害科学国際研究所、東北大学災害科学コアリサーチクラスター災害人文学領域